

拝啓 今年も早や2月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今は椿が咲いていると思います。

今月は、カウマン夫人編著の『日の出に向かって』（日本ホーリネス教団出版部）の3回目です。3月9日の所に、次のように書かれています。

「特別な意味において、70歳で人生は始まります。なぜなら、その時が成熟した精神で、豊かな心をもって、誰でもが人生の学校を卒業すべき時だからです。それは、学びの初期の時代には不可能であった奉仕を行うときです。半世紀近くの年月、クリスチャン生活とそのご奉仕を続けてきて、私たちは角が取り除かれ、心が熟してきたのです。…

もし人が70歳になると、これ以上そんなに長く生きられないのは確かですが、57歳あるいは67歳の時よりも、人生は深く、高く、広くなるに違いありません。」

小西芳之助先生も、70歳を超えると展望が開けてくる、とよく話しておられましたし、確かにその通りだと思うことがよくありました。

2月19日から9日間、ギリシャ・パウロの旅に参加してきました。ギリシャ北部のテサロニケまで飛行機を乗り継いで入り、そこからは、パウロと関係する遺跡、パウロとは関係のない遺跡を、アテネ、コリントまでバスで訪ねて回るツアーでした。

2月21日は、ピリピを訪れました。ピリピは、パウロがマケドニアで最初に訪れて伝道した大きな遺跡があるマケドニアの首都ですが、パウロが牢屋に入れられたという牢屋の跡、トルコのルステラから来た紫布の商人のルデアに洗礼を授けたルデア川にも行きました。パウロは、第3回伝道旅行でエペソにいる時、ルデアをはじめとするピリピの人からいろいろな援助を頂き、お礼にピリピ書を書きました。

2月25日は、アテネでアクロポリスの丘にのぼり、パウロが演説をしたアレオパゴスの丘を訪ねました。コリントは、パウロが第2回伝道旅行では1年半、第3回伝道旅行では3カ月住みましたが、その間に、パウロはテサロニケ人への手紙、ロマ書を書きますが、エペソと共にキリスト教史上重要な都市です。コリントも、大きな遺跡が残っています。

そのほか、ギリシャの中部にメテオラという所に岩塔地帯があり、岩塔の上に建てられた修道院を2つ訪れました。内部の装飾画が、見事に描かれていて感動しました。デルファイでも、大きな遺跡を見ました。

今はバスで数日でピリピからコリントまで回れますが、パウロは、徒歩で数人の弟子と共に徒歩で旅行したでしょうが、途中山がちな所も多く、旅行は大変であったろうと偲びました。

もう少しで、温かい日々がやってきましようが、しばらくは寒さ厳しき折柄、皆様も、どうぞお身体ご自愛ください。

敬具

平成30年2月28日

山口周三

エンカウンターの読者各位